

令和8年度 第1回 七飯高等学校 学校運営協議会 (コミュニティ・スクール) 議事録

日時： 令和8年5月25日(月)

場所： 七飯高等学校 会議室

出席者： 校長、教頭、事務長、委員12名、教員3名(ミドルリーダー)

1. 開会および校長挨拶

校長より、第1回の開催にあたっての挨拶が行われました。最近の生徒の活動(3年生の様子、壮行会、カーライル高校との交流セレモニーなど)が写真で紹介され、本協議会が「楽しい会議」となるよう協力が求められました。

(1) 学校運営協議会の規則および目的の確認

①規則の制定

北海道教育委員会の指針に基づき、七飯高校の実態に合わせた規則が本日(令和8年5月25日)より施行されました。

②委員構成

委員定数は15名以内。今回は地域住民、保護者、関係機関などから15名全員が快く引き受け、校長や教職員を含まない純粋な外部委員のみで構成されました。

③運営方針

委員の任期は2年(再任可)。守秘義務、特に個人情報の取り扱いについて注意喚起がなされました。

2. 委員紹介

各委員および学校側出席者から自己紹介が行われました。

3. 会長・副会長の選出

①会長

代表し、会長から

- ・CSの委員は、校長が掲げる学校の姿に対して「お手伝いするわけでも応援するわけでもなく、一緒に作る存在」であるべき
- ・「あとは学校にお願いね」という丸投げの形ではなく、「一緒にやってみましょう、一緒にいい方法を作ってみましょう」という考え方で進めたい
- ・社会教育の視点から、CSは「学校に関わることで地域づくりをする仕組み」とであると定義したい
- ・町内に道立高校があることは大きな強みであり、地域と共に歩む展開を期待している

4. 学校経営方針の説明

校長より、今年度の重点目標が説明されました。

①スローガン

「Good Team、 Good Days（素敵な仲間とご機嫌な毎日を）」。

②重点事項

良好な集団作り、自他の生命を大切にする健康指導（自殺予防等を含む）。

③地域連携

町内唯一の高校として、町民がどう関わり、応援していけるかを重視する方針が示されました。

④広報活動

生徒会を中心に公式 Instagram を4月から始動。生徒主体の情報発信を強化しています。

5. アイスブレイキング（七飯高校クイズ大会）

委員同士の交流を深めるため、学校の歴史や象徴に関するクイズが行われました。

①主な内容

創立年（昭和58年）、校章のモチーフ（リンゴの葉）、生徒会誌の名（「緑峰」）、教育の3本柱（国際理解・環境・キャリア教育）など。

6. 熟議（グループ討議）

「七飯高校のイメージ」と「生徒募集に向けた方策」について3つの部会（生徒育成、キャリア教育、地域探究）に分かれて議論されました。

①現状分析

地元（七飯中学校）からの進学率が、かつての約20%から12.3%まで低下しており、函館方面への生徒流出が課題となっています。

②主な意見

・生徒募集

親の視点からは「給食（または弁当注文システム）」や「スクールバス」の導入が魅力になる。

・広報

Instagramでの日常発信は受験生に有効。ドローン撮影などの新しい技術の活用。

・交流

幼稚園や小中学校との継続的な関わり、特別支援学校との演奏交流などの強みを伸ばす。

7. 今後の計画

①部会活動

校則の見直し（生徒指導提案に基づく熟議）やインターンシップの企業集め、地域探究学

習などで、適宜部会を開催し、委員の協力を得たいとの要望がありました。

②全体会

第2回を9月、第3回を1月に開催予定。

8. 閉会

校長より、CS（コミュニティ・スクール）は学校を応援するだけでなく、「一緒に作る存在」として共に歩んでほしいとの挨拶があり、閉会しました。

各部会での熟議内容

1 生徒育成部会

生徒を呼び戻し、学校を活性化するための戦略的なアイデアが議論されました。

①「親が行かせたい学校」への転換（食の支援）

保護者の最大の負担である「毎日のお弁当作り」に着目し、給食の導入や弁当注文システムの構築が提案されました。給食センターとの連携や業者への委託により、1食300～400円程度で提供できれば、保護者にとって強力な選択理由（インセンティブ）になるとの意見です。

②SNS（Instagram）による広報

これまでの硬い広報ではなく、高校生の日常や楽しい学校生活を、生徒主導で継続的にInstagramによる情報発信が提案されました。中学生の目に留まる機会を増やすため、「刺さる」発信が重要であると強調されました。

③母校訪問の継続

昨年実施された、高校生が母校の中学校を訪れて学校紹介を行う取り組みは、実際にそれを見て入学した生徒もいるため、効果的であると評価されました。

2 キャリア教育部会

① 学校のイメージと環境

・立地と環境

校舎の標高が函館山と同じくらい高く、見晴らしが良い一方で、通学路の坂が急であるという意見が出されました。卒業生からは、自転車通学で登校した時点で汗だくになるほどだったというエピソードも語られました。

・生徒の傾向

地元・七飯中学校からの進学者は、かつてよりも地元占有率が下がっている印象があるとの指摘がありました。

・全体的な印象

良くも悪くも「フラット（中立的）」であり、際立った特徴が外部に伝わりにくいという課題が共有されました。

② 七飯高校の強み（売り）

・国際交流

国際交流や海外派遣を志望して入学する生徒も一定数おり、大きな魅力となっている。

・部活動

最近、強い剣道部、最近ベスト4に進出した野球部、町広報の表紙を飾るなど活躍が目立つ写真部などが挙げられました。

・教育方針

「環境教育」「国際理解教育」「キャリア教育」の3本柱が浸透しており、国公立大学への進学実績もコンスタントに維持されています。

3 地域探究部会

学校に対するイメージと現状の共有

①「普通の高校」という認識

参加者からは、七高は「良くも悪くもフラット（普通）」であり、強烈な特徴や尖った部分が外部に伝わりにくいという意見が出されました。

②潜在的な魅力

一方で、実際に学校に関わっているメンバーからは、「生徒が純粹で反応が良い」、「入っただけで楽しい学校である」といった、中に入らなければ見えない魅力があることが指摘されました。

③地域活動の既存実績

写真部の作品が町の広報の表紙を飾っていることや、ボランティア部の幅広い活動、かつて行われていた吹奏楽部等の小中学校・幼稚園への演奏訪問など、多岐にわたる地域貢献の実績が再確認されました。

④広域的な役割

七高は地元生だけでなく、大沼、森、函館など広いエリアから生徒が集まる「唯一無二」の場所であり、近隣自治体にとっても重要な拠点であるという認識が共有されました。

⑤生徒募集とアピールの課題

中学生への訴求不足、地元・七飯中学校からの入学者数が減少傾向にある現状に対し、中学生やその保護者が「なぜ七高を選ぶのか」という動機付けが弱いことが課題として挙げられました。

⑥情報の「見えにくさ」

素晴らしい活動をしていても、それが地域や受験生に「顔の見える形」で伝わっていないことが、イメージの固定化（普通、特徴がない）に繋がっていると分析されました。

⑦今後の方向性（地域探究部会として）

「総合的な探究の時間」において、地元住民のネットワークや知恵を借り、生徒が地域に飛び出していくカリキュラムを構築する。

その他のご意見

- 来年度に向けて、PTA・生徒保護者や学校運営協議会のメンバー、地域の方など、何か生徒と一緒に出し物や出店など、何か学校祭に携われるイベントはできないか。
- 市立函館高校の学校祭では、行灯を作り、担いで電車通りをパレードのように練り歩くイベントが人気。生徒だけではなく、保護者も製作し、生徒と一緒に歩いている。おやじの会という組織もある。そういった他校の取り組みも参考にできないか。